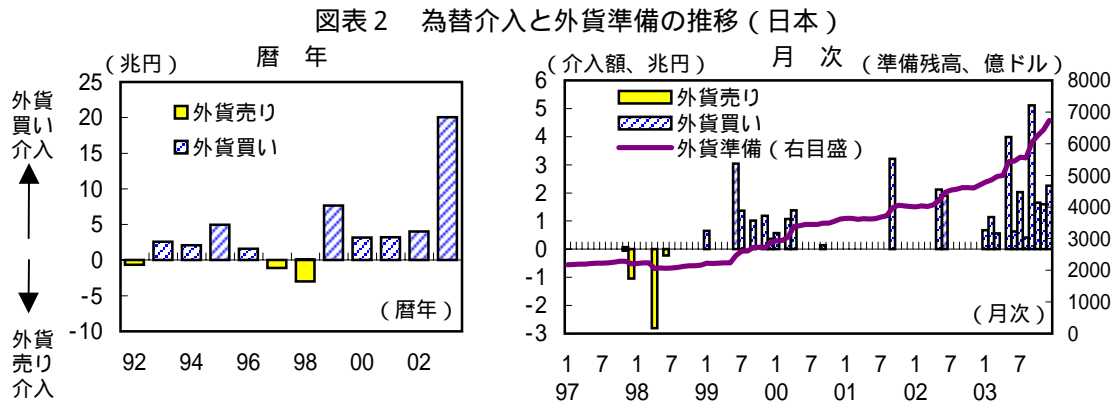
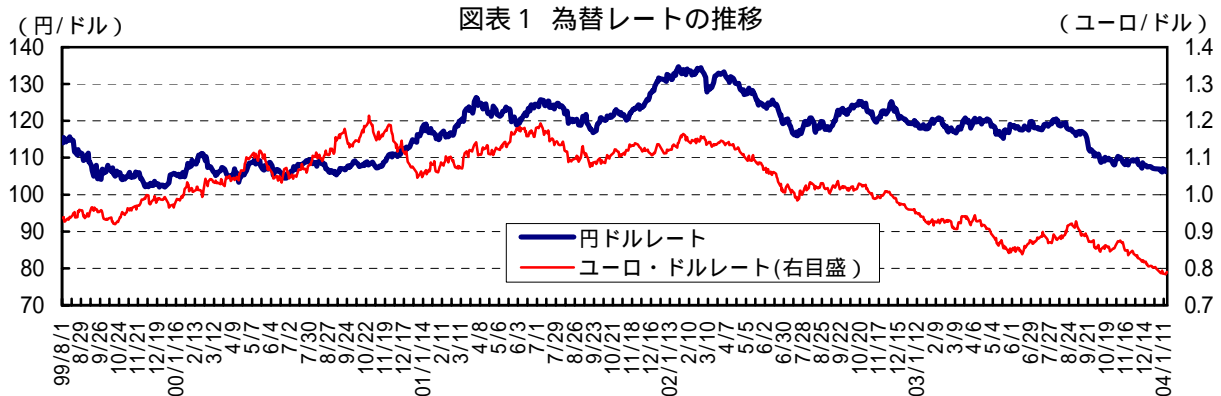


為替を巡る動き

- ・2002年以降、米ドルは円に対してもユーロに対しても下落が続いている。
- ・日本の通貨当局は、円高の進行を防ぐために為替介入を断続的に行い、2003年の為替介入額は歴史的な高水準となった。それに伴い、外貨準備も増加している。
- ・為替介入資金は一時借入金等（政府短期証券など）によって調達されるが、この限度額は毎年引き上げられ、15年度補正で21兆円、16年度当初予算で40兆円引き上げられる見込であり、**通貨当局の為替介入姿勢が今後とも続くことが予想される。**
- ・各国の為替に関する要人発言を比較すると、円高を望まない日本と、ドル安を容認するアメリカの姿勢が対照的になっている。ユーロ圏では、2003年中はユーロ高を放置する姿勢であったのが、2004年に入り変化の姿勢が伺える。



- (備考) 1.財務省資料により作成。
2.91年以降について、外貨買い介入は、大半が「米ドル買い」であるが、「マルク買い」「インドネシアルピア買い」「ユーロ買い」介入が行われている。一方、外貨売り介入は「米ドル売り」のみ。
3.外貨準備高は、月末値。

図表3 外国為替資金特別会計の一時借入金等の限度額 (兆円)

13年度当初	14年度当初	15年度当初	15年度補正	16年度当初
59	69	79	100	140

図表4 為替に関する主な要人発言

	日付	人名	コメント
日本	2004/1/7	谷垣財務相	急激な動きに対してはタイムリーに適切な行動をとる
	2004/1/8	林財務次官	急激な変動に対しては、断固たる措置を取る
	2004/1/9	谷垣財務相	過度の為替変動や投機的な思惑に対して適切な手段をとるのが当然だ
アメリカ	2004/1/7	スノー財務長官	強いドルを支持する政策に変わりはない。為替相場は市場によって決められるべき
	2004/1/13	グリーンズバフFRB総裁	通貨安に特有の現象であるインフレが起きていない。
欧州	2003/12中	ケリック・オランダ中銀総裁	為替レートが堅調なのは経済にとってはいいこと
	2004/1/12	トリシェECB総裁	我々は懸念しているし、無関心ではない。